

令和 6 年度 共同輸送・中継輸送実装研究会（第 4 回）

・「共同輸送・中継輸送実装研究会」の経緯

「共同輸送・中継輸送実装研究会」の経緯

研究会設立の経緯

道北地域の恒常的な物流課題に対し、名寄周辺を核として課題解決に向けた検討と取組がスタート

北海道開発局を事務局に、地域の関係機関・民間、北海道、北海道運輸局等をメンバーとする
名寄周辺モデル地域圏域検討会 物流ワーキングチームを立ち上げ

共同輸送・中継輸送の実証実験が、計画的かつ効率的な準備・検討の推進が図られるよう、必要な検討と調整を行うとともに、本格運用に向けた課題の検討を行うため、名寄市、名寄商工会議所、北海道開発局を事務局とする

共同輸送・中継輸送実装研究会を令和5年3月15日に設立

研究会の目的

研究会規約 第2条(目的)

研究会は、道北地域における持続可能な物流システム構築に向けた共同輸送・中継輸送の実証実験が、計画的かつ効率的な準備・検討の推進が図られるよう、必要な検討と調整を行うとともに、本格運用に向けた課題の検討を行うことを目的とする。

第1回研究会

○開催日：令和5年7月10日

○出席者（◎：座長）

<有識者>◎北見工業大学 高橋 清 教授、小樽商科大学 岸本 稔 教授、北見工業大学 三枝 昌弘 准教授

<事業者>道北圏域ロジスティクス総合研究協議会、北洋銀行名寄支店、(株)旭川物流、五十嵐運輸(株)、(株)ウェブ、エア・ウォーター物流(株)、(有)おさ、海王食品(株)、佐川急便(株)北海道支店、(有)名寄トラック、日本通運(株)名寄支店、北海道物流開発(株)、北旭物流(株)、(有)真嶋食品、(株)マルゴ福山水産、都運送(株)、ヤマト運輸(株)

<行政機関>北海道運輸局、旭川運輸支局、旭川開発建設部、北海道、上川総合振興局

<事務局>名寄商工会議所、名寄市、北海道開発局

- ・2024年問題を踏まえた中継輸送の実装に向けた議論を展開
- ・中継輸送の実装に向けた取組を全道展開する必要性
- ・今後に向けて、物流事業者同士が本音で語り合える場が必要

共同輸送・中継輸送の成立に向けたワークショップによる物流事業者間のマッチングモデル「ロジスク」を提案



「共同輸送・中継輸送実装研究会」の経緯

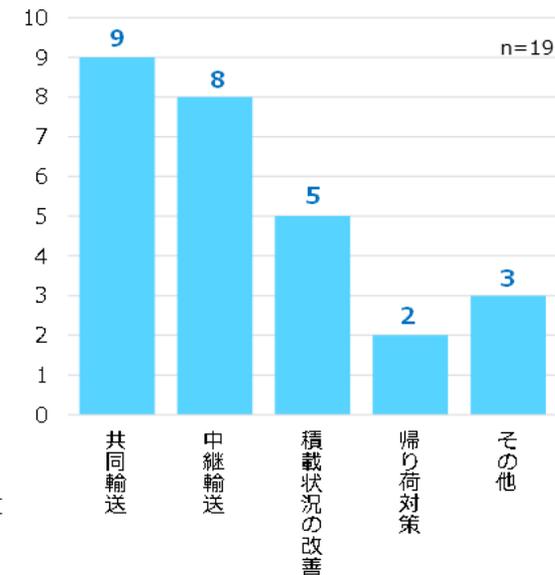
第2回研究会「道北ロジスク」

物流事業者、行政、学識経験者等で構成する「共同輸送・中継輸送実装研究会」において、物流事業者同士が2024年問題解決のため、共同輸送・中継輸送の実現に向けて話し合うマッチングイベント「ロジスク」※の道北地域における第1回を開催しました。

※「ロジスク」とはロジスティクス+スクラムを意味する、共同輸送・中継輸送実装研究会による造語です。



Q.「第1回道北ロジスク」を通じて実現しそうな取り組みはございましたか？(複数回答)



- 日時 令和5年10月6日(金) 10:00~12:00
- 場所 旭川合同庁舎 東館1階入札執行室・2階第1会議室 (旭川市宮前1条3丁目3-15)
- 出席者 道北方面の物流に課題を抱える物流事業者や荷主企業 (18の企業、団体等から32名が出席※) (※うちオブザーバーは4企業等、12名)
- 内容 2つのテーマに分かれて意見交換

(1)道北地域の物流維持方策について

道北での農水産品輸送の維持や共同輸送・中継輸送等の効率的で持続可能な輸送手法の構築に向けた事業者間のマッチング

※同じテーブル内で3,4者程度のグループに分かれて話し合い、途中、席替え等を行うことで、テーブルのメンバー全体とまんべんなく交流

議題

- ・季節変動(ある時期は荷物が多いが、ある時期は荷物が少ない状態)、片荷輸送(産地からの荷物はあるが、産地への荷物がない状態)など農水産品特有の課題を抱える事業者同士が互いに荷物を補い合うことで積載状況を改善
- ・事業者同士が協同し、トラックドライバーの長距離・長時間輸送の軽減につながる中継輸送を実現
- ・加工、輸送、保管、通関等の物流の一連の流れに必要な機能を事業者同士が補完、あるいはモーダルシフト等の輸送手段の転換により各事業者の抱える課題を解消 等

(2)中継拠点のあり方について

過年度までの調査により明らかになった中継拠点の配置ニーズが高そうなエリアにおいて、拠点に求められる機能等の検討

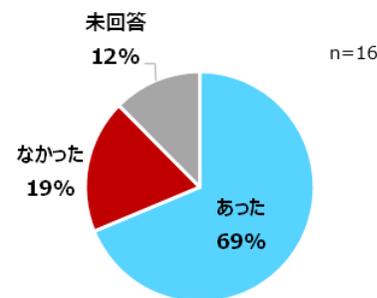
議題

- ・中継拠点に必要な機能・設備
- ・中継拠点の運営・管理あたりの役割分担 等

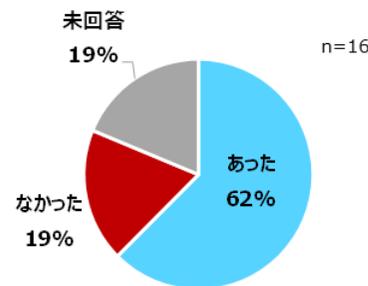
5 開催結果

Q.マッチングについてお伺いします。

(1) マッチングできそうな企業はございましたか？



(2) マッチングが実現するかは不明でも、もう少し業務について話したいと思った企業はございましたか？



「共同輸送・中継輸送実装研究会」の経緯

第3回研究会「道央ロジスク」

物流事業者、行政、学識経験者等で構成する「共同輸送・中継輸送実装研究会」において、物流事業者同士が共同輸送・中継輸送の実現に向けて話し合うマッチングイベント「ロジスク」※を、令和5年10月6日に旭川で開催した「第1回道北ロジスク」の続編として、道北で生産された農水産品等の受け手側となる道央側で初開催しました。

※「ロジスク」とはロジスティクス+スクラムを意味する、共同輸送・中継輸送実装研究会による造語です。

- 日時 令和5年12月4日(月) 14:00~17:00
- 場所 NCO札幌ビル11階会議室(札幌市北区北7条西1丁目2-6)
- 出席者 物流に課題を抱える物流事業者や荷主企業
(20の企業、団体等から38名が出席※)
- 内容 (※うちオブザーバーは5企業等、9名)
 - ①広くマッチング先を見つけるテーブル
事務局が予め指定した3, 4社程度のグループに分かれて、20分ごとのローテーションを4回実施し、交流・意見交換。
 - ②特定先との商談を次の段階に進めるテーブル
「第1回道北ロジスク」等においてマッチングの種が見つかった事業者間で共同輸送・中継輸送等のより具体化に向けて1対1形式で商談。
 - ③交流時間
参加企業、団体等の間で自由に交流できる時間を設定。

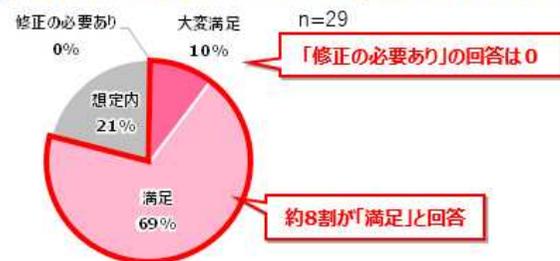
議題

- ・季節変動(ある時期は荷物が多いが、ある時期は荷物が少ない状態)、片荷輸送(産地からの荷物はあるが、産地への荷物がない状態)など農水産品特有の課題を抱える事業者同士が互いに荷物を補い合うことで積載状況を改善
- ・事業者同士が協同し、トラックドライバーの長距離・長時間輸送の軽減につながる中継輸送を実現
- ・加工、輸送、保管、通関等の物流の一連の流れに必要な機能を事業者同士が補完、あるいはモーダルシフト等の輸送手段の転換により各事業者の抱える課題を解消 等



5 アンケート結果

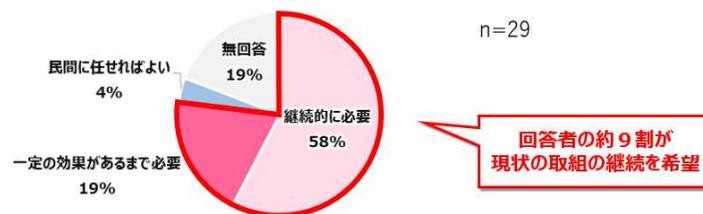
Q. 第1回道央ロジスクの全般的な満足度はどうでしたか？



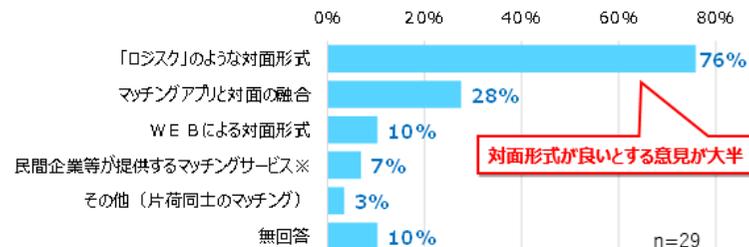
Q. 「第1回道央ロジスク」を通じて実現しそうな取り組みはございましたか？(複数回答)



Q. ロジスクのような取組は、継続的に必要と考えますか？



Q. 今後の、よりよいマッチングのあり方(形式)について伺いたします。(複数回答)



※物流事業者同士のマッチング支援をPC上で行うサービス